



職場体験学習に向けてのマナー講座

10月17日(木)、今年も多く保護者の方や地域の方のご観覧をいただき校内音楽祭が開催されました。校内音楽祭に懸ける思いの熱さやハーモニーの美しさは3年生にはかなわないけれど、2年生としてできる最大限の演奏ができました。

学年主任、そして音楽科教師として、私なりの校内音楽祭の感想を書きます。

まず、2年生は、夏休みの「CDに合わせて音取りをしてくる」という宿題をほとんどの人がきちんとできていたことが、校内音楽祭の成功の第一歩となりました。9月最初の音楽の授業で、どのクラスもいきなり合唱の形ができたのは驚きでした。そしてピアノ伴奏者の努力も素晴らしかったです。どのクラスもピアノ伴奏の難易度は高いものでした。夏休み明けにあれだけスラスラと弾きこなすためには、かなりの練習が必要だったと思います。しかし、どのクラスも見事なピアノ伴奏を披露し、それがクラスの皆を感動させ、やる気を高めたと思います。指揮者も、始めはなかなか指揮の基本形も分からず、これで大丈夫か・・・?と心配でしたが、自分で研究を重ね、皆の歌声をリードする堂々とした指揮ぶりで合唱の中心となり活躍しました。

担任、副担任も、いつも朝や放課後の練習に付き添い、見守ったり、また、時には厳しく喝を入れてくださったりとありがたかったです。それにクラスの生徒が一生懸命に応えようと頑張っている姿に生徒と教員の温かい人間関係を見て取ることができ、本当に素晴らしい学年団だなあと微笑ましく思いました。校内音楽祭当日、ステージに送り出す担任と副担任が、一人一人に声をかける姿、演奏中、無心にうなずきながら曲に聞き入って応援する姿等を見ると、心が熱くなり、涙が自然と流れてきてハンカチ無しでは各クラスの演奏を聴くことができませんでした。

なかなか力一杯歌うことが難しいと言われる中学2年生。綾川中の2年生はそんなことを全く感じさせない、むしろ一生懸命に歌うことが素晴らしいという合唱の伝統文化を継承することができました。男声の豊かに響く歌声や、女声の正しい音程感、クラス全体で少しでも美しいハーモニーを創ろうとする姿、そして細部の強弱記号を意識するとともに子音まではっきりと出そうとする歌い方等々、中2と思えないハイレベルな合唱に、生徒の力は**夢限大**(学年団目標)だと改めて感じました。

学年団でのリハーサルを重ねる度にどんどん上手になって、私もとてもやり甲斐を感じました。よくぞここまで練習を重ね、一生懸命に歌い切ったことに対して、学年主任として、音楽科教師として、感謝の気持ちで一杯です。

すべての生徒が協力的で、まさにクラス一丸となった取組が感じられ、中学校の音楽教師になってよかった、そして、この素晴らしい2年団の生徒たちと出会えたという喜びを、改めて噛みしめることができた一日でした。

合唱を通して集団が一つになることを目的に取り組んできた2ヶ月間。この経験を生かして、今後より一層一つにまとまり、そして益々素晴らしい集団になっていくことを期待しています。

(学年主任より)



素晴らしい合唱をありがとう!



【 お辞儀の練習 】



【 アポイント取りの電話の練習 】

～保護者の皆様へ～

◆11月の集金額等は、以下の通りです。

給食費	4,442	円
学校費	580	円
教材費	2,470	円
修学旅行積立費	4,000	円
変動費(校内音楽祭バス代)		
	1,130	円
合計	12,622	円

口座振替日または、クレジットカード引き落とし日までに、通帳等の残金をご確認ください。

◆学校への遅刻や欠席等の連絡は、朝7時50分までに必ずお願いいたします。
(綾川中学校 TEL876-1187)

音楽祭を振り返って

1組

校内音楽祭を通して、「努力は必ず報われる」という言葉は本当だったと感じました。私は初めて伴奏を務めることになったのですが、最初はうまく弾くことができませんでした。自分が本当に弾くことができるのか、とずっと不安でいっぱいでした。

しかし、ある日の練習で、電子ピアノを準備していた時、友達が当たり前のように手伝ってくれたことがありました。また、上手く弾くことができなかったとき、励ましアドバイスをくれました。些細な行動だったかもしれませんが、私はとても温かい気持ちになり、「この人たちのために全力で頑張ろう」という強い気持ちが生まれました。賞をとることはできなかったけれど、クラスで助け合い、団結して臨んだ今回の校内音楽祭では、「今まで頑張ってきてよかった」と思える合唱をすることができたと思います。

2組

私は、校内音楽祭の取組を通して、クラスの「絆」が深まったと感じます。

練習を始めたころは、校内音楽祭にかける思いの強さが一人一人違って、それが歌声にも影響していたのか、まとまりのない合唱でした。そこで、どうすれば思いを一つにした合唱を作り上げることができるのか、たくさん考えて、たくさん悩んで、みんなで意見をぶつけ合いました。そうやってクラスのみんなで壁を乗り越えたからこそ、つかみ取ることできた銀賞だと思います。

校内音楽祭の練習をしていく中で私は、歌の歌い方・技術だけではなく、協調性や目標に向かって努力することの大切さなど、たくさんのおもいを身をもって体験し、学ぶことができました。「合唱を行う意味」はそういったところにあるのかもしれない。

この経験を胸に、これからもより進化できる2組で進み続けたいと思います。

3組

3組は、目標にしていた「金賞」をとることはできませんでした。しかし、金賞よりも大切な「団結力」をこの校内音楽祭で得ることができたと思います。

最初は、全体で音が取れていない、ダラダラと過ごす人が多いといった問題があり、これは本当に団結し、合唱を行おうとしているのかと疑問に思ったこともありました。しかし、3年6組の合唱を聴き、自分も含め、クラス全体にスイッチが入りました。それからの練習では、クラスで何度も話し合いをして、気持ちを切り替えて練習に励みました。そして、教室で先生にレッスンをいただいたとき、初めて2年3組として、1つになろうとしていたと感じました。校長先生にも私たちの歌を聞きに来ていただいて、心のこもった歌を届けることを意識することもできました。

本番は、今までで一番の合唱だったと思います。

4組

私が校内音楽祭を通して学んだことは二つあります。

一つ目は、団結です。4組はこれまでの行事を通して、団結力があると思っていました。しかし、いざ練習を始めるとばらばらで、一週間前でも上手くいっていませんでした。そこで、先生に時間をもらい、みんなで話し合う時間を作りました。みんなで考えたことで、団結力が生まれたと思います。二つ目に、指揮者としての振る舞い方です。始めは先生にも注意されていて、他のクラスの指揮者を見ては、自分はまだまだだと不安になることもありましたが、しかし、「ナンバーワンじゃなく、オンリーワンになったらどう」と言われたことを胸に頑張りました。リハーサルで、「指揮グッド」との講評をいただいた時にはとてもうれしかったです。

本番では、4組だけの「オンリーワン」の合唱ができたと思います。この校内音楽祭を通して、改めて2年4組でよかったと思いました。

5組

私が校内音楽祭で学んだことは、仲間の大切さです。最初は音取りがちやんとできていなかったり、気持ちを切り替えて練習に臨むことができなかったりして、緊張感がありませんでした。しかし、先生方のアドバイスや他のクラスの様子から、自分たちとの意識の差に気が付き、クラスみんなが気を引き締めることができました。

それからは、歌う回数ではなく、一回一回の気持ちの入れ方を大事にして、パートごとに定期的に話し合いをしました。歌声が不安定なときも、みんなで励まし合い乗り越えることができました。

本番は緊張したけれど、今までのどの練習よりも良いものになったと思います。そして、金賞をとることができたのは、指揮者や伴奏者、クラスのみんながいたからです。これからもこの経験を活かして、どんな困難もクラスで乗り越えていきたいです。



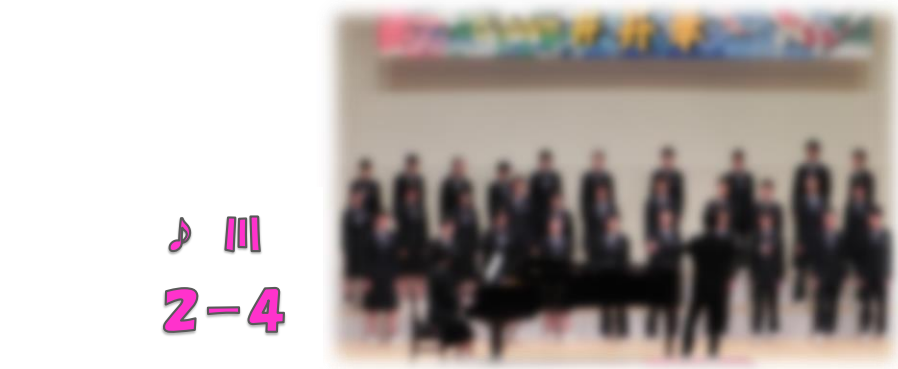
♪ わが里程標
2-1



♪ ひとつの朝
2-2



♪ 信じる
2-3



♪ 川
2-4



♪ 寒馬よ雪原に唄け
2-5